



介護事業所から広がる

認知症の人の社会参加支援セミナー

認知症になってもやりたいこと、働きたい思いを尊重する介護サービス事業所の取組が全国的に広まりつつあります。大阪府においても、認知症の人の幅広い居場所づくりや社会参加の取組が府内全域で広がるようセミナーを開催します。

**日時：令和8年3月13日(金) 13:30～16:30
(受付開始 13:00～)**

会場：大阪赤十字会館 301会議室
(〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-7)

プログラム

1 基調講演

「介護サービス事業所における認知症の人の社会参加の実施について」

～介護サービス提供時間中の有償のボランティア活動とは？活動の注意点など詳しく解説します！～



**【講師】100BLG株式会社
取締役 前田 隆行氏**

(プロフィール)

東京都町田市において、日本で初めて社会参加型デイサービスを実現し、地域社会で仲間と一緒に役割を持って暮らすための拠点を全国展開する100BLG株式会社の取締役兼エバンジェリスト。その取組は、国内外様々なメディアにおいて取り上げられ世界的にも注目を集めています。

また、株式会社日本総合研究所の客員研究員として、厚生労働省や経済産業省の認知症施策や事業、内閣府の認知症施策推進関係者会議委員就任等、数々の認知症施策の取組へ携わっておられる他、一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG）理事としてもご活躍されています。

2 介護サービス事業所における事例紹介

1) Roles 晴耕雨読舎南平台における認知症の人の社会参加の取組
特定非営利活動法人たかつき
事業本部長 石神 裕美子 氏

2) HiBi8における認知症の人の社会参加の取組
株式会社Eight 代表取締役 城山 いづみ 氏

【主催】大阪府

【問い合わせ先】福祉部 高齢介護室介護支援課認知症医介・連携グループ

☎ : 06-6941-0351 内線4473

申込方法については裏面をご確認ください！

お申し込み方法

お申込み方法は、「大阪府行政オンラインシステム」による電子申請のみとなります。

【申込締切】 令和8年3月10日(火)

※定員に達し次第、申込み締め切りとさせていただきますので予めご了承ください。

(手順)

①下記URLもしくは右2次元コードから「大阪府行政オンラインシステム」にアクセス

URL : <https://lgpos.task-asp.net/cu/270008/ea/residents/portal/home>



②「申請できる手続き一覧」の「個人向け手続き」より「認知症の人の社会参加支援セミナー」を検索し、必要事項を入力をいただいたうえでお申込みください。

※本研修を受講するにあたり、配慮が必要な方は、お申込みの際入力フォームにその旨ご記載ください。

会場までのアクセス

**会場：大阪赤十字会館 301会議室
(〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-7)**

(最寄り駅から会場まで)

- Osaka Metro谷町線「天満橋駅」下車3番出口より徒歩5分
- 京阪電車「天満橋駅」下車 徒歩7分

※会場には駐車場・駐輪場がございませんので、公共交通機関のご利用をお願いします。



取組事例を発表いただく事業所のご紹介

◆ Roles晴耕雨読舎南平台（ろーるずせいこううどくしゃなんぺいだい）

住宅街にある地域密着型通所介護事業所で、『自分たちは、介護が必要になったとしてもまだまだ良くなりたい、まだまだ社会の役に立ちたい、みんなあきらめていない』という利用者さんからの言葉を形あるものにしたいという想いで、敷地内での園芸を中心に利用者一人一人が「役割」を感じられる活動をされています。

香川県にある医療機関へ利用者の方が作成した手作りギフトを送り届けるなど、遠く離れた地域との交流を築く取組が評価され、令和7年1月25日には、NHK厚生文化事業団が主催する認知症になつても安心して暮らせるまちづくりを行っている団体を表彰する第8回「認知症とともに生きるまち大賞」を受賞しています。

◆ HiBi8（はいびえいと）

「認知症があつても人や社会とのつながり」を継続することを大切に、社会参加活動の取り組みに力を入れ活動をしている認知症対応型通所介護事業所です。デイサービス利用中の有償ボランティアの実施。ゴミ拾いをしながら街をパトロールするパトラン、ペットボトルキャップを使用した、アップサイクル活動。その他キャップ以外でも認知症の方と様々な雑貨などを制作し、人や社会とのつながりづくりの一環として、ハンドメイドフェスへの出店やマルシェの開催などを行っています。併せてイベントの際などに、レモネードスタンドを実施し、小児がん研究の寄付に繋げています。

「できる力」を奪わず、「誰かのために」「何かために」という役割をつくり、認知症があつても社会とのつながりを持ちながら、普通に過ごせる日々を目指して活動しています。